















1961年 西山商店街誕生
1980年代 最盛期を迎える
1990年代以降 低迷期・店舗減少
2019年 ニシヤマナガヤ誕生
2020年 未完美術館誕生
2022年 暮らせる図書館誕生
2023年 駄菓子屋水都軒リニューアル
2024年 コトづくり研究所誕生
2025年 なごや裏山芸術祭開催
2026年 Pizzeria 誕生予定

ニシヤマナガヤからコトづくり研究所　ー連鎖する商店街、7年の軌跡ー

名古屋市名東区にある、全長約 100m の小さな商店街「西山商店街」。かつては空き店舗も目立っていたが、近年、新たな出店が重なり、再生の動きが生まれている。
長年商店街を支えてきた理事長とともに、建築家と大学教員が関わり、マスタープランを描きながら個々のプロジェクトを積み重ねてきた。その結果、状況は少しずつ変化していった。
同時に、この二人は設計者にとどまらず、事業者としても商店街に拠点を構えている。多くの大学生が DIY やデザインに参加したこと、美術館や図書館などの文化的な拠点を生み出したこと、改修された建物が回遊動線を形成したこと、レンタルスペースによって関係人口が増加したことなど、さまざまな連鎖が重なり、商店街は着実に変化を遂げている。
コミュニティの更新と小さな経済の循環が重なり合い、商店街は店主と客以外の関係性が生まれる場へと変化している。


「ニシヤマナガヤ」1F 内観


「ニシヤマナガヤ」1F 内観


「コトづくり研究所」1F 内観


「コトづくり研究所」1F 内観

新 × 旧の連鎖

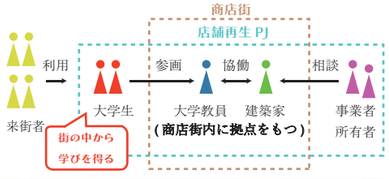
西山商店街は 1960 年代に西山団地の造成に合わせてつくられた商店街で、星ヶ丘駅から徒歩 20 分程に位置している。交通の利便性が高い、周辺に公園が多い、学区内に居住者が多い、転勤族が多い等の特徴があげられる。
1980 年頃を境に衰退が始まったが、ニシヤマナガヤができた 2019 年以降、街に変化が起き始め、新たな店舗が増え、新しさと古さが共存する商店街となっている。




西山商店街全景 / 全長 100m ほどの小さな商店街

まなび × リアルの連鎖

徒歩圏内にある相山女学園大学には建築・インテリアを学ぶ学生が在籍しており、商店街内には拠点を構える建築家（ニシヤマナガヤ他）と大学教員（コトづくり研究所）がいる。両者は多くのプロジェクトで協働し、大学生も参画することで、実際に実現されるプロジェクトを通じて、建物が完成するまでのプロセスだけでなく、その後の使われ方まで学ぶことができる環境が形成されている。




倉庫をコンバージョンした未完美術館は 9 割 DIY で施工した

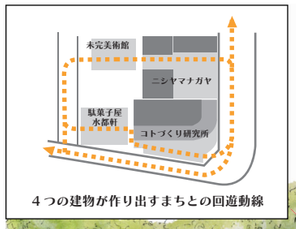

塗装


家具のデザインから施工


フローリング張り

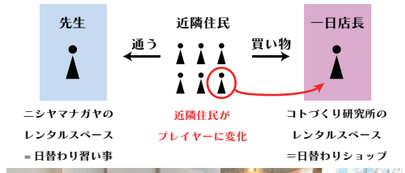
隣り合う４つの建築の連鎖

商店街の中でも南西に位置する 4 つの建物は、長い時間をかけて緩やかに関係性を築きながら、周辺環境とも呼応しつつ一体的な建築群を形成してきた。ニシヤマナガヤ、未完美術館、駄菓子屋水都軒、コトづくり研究所は、物件オーナーや事業者、プロジェクトのスタート時期も異なるものの、同じ建築家と大学教員によるプロジェクトチームが関わることで、マスタープランを描きながら回遊動線を丁寧に生み出し、点から面へと劇的な変化を遂げている。



商店街 × 近隣住民の連鎖

ニシヤマナガヤ 2 階にあるレンタルスペースでは造形教室などの習い事が開催されているのに対して、コトづくり研究所では歩道に面した販売スペースと厨房によりマルシェや間借り営業に対応している。ここでは時に近隣住民がプレーヤーとなり、その友人が訪れる好循環が生まれ、商店街の賑わいの創出と飲食店不足という課題の解決にも寄与している。両レンタルスペースは単純な店舗と比べてコンテンツの幅を広げ、関係人口の増加にもつながっている。




様々な事業者、近隣住民によるマルシェなどが開催される


時には「角打ちの」ような使い方もされ、人々が自然と集まる

商業 × 文化の連鎖

文教地区とも呼ばれる人口の多い学区に位置するこの商店街では、従来の「買い物の場」にとどまらず、目で楽しむ・知識を得る文化的要素を掛け合わせることで新たな価値を見出してきた。未完美術館や暮らせる図書館の取り組みに加え、昨年はエリアを巻き込んだ「なごや裏山芸術祭 2025」を開催するなど、商業と文化が連鎖しながら広がり、名古屋市と東部地域をつなぐ交流拠点にもなっている。


未完美術館にて行われた、アール・ブリュットの展示


暮らせる図書館では「部活動」と呼ばれるコミュニティも誕生


なごや裏山芸術祭 2025 では東京や大阪からの参加者も